

学生のアイデア×匠の技



shokobo



公益財団法人 一宮地場産業ファッションデザインセンター

翔工房とは

■ アパレル製品を開発するためには、抽象的なアイデアやイメージを、テキスタイルやガーメントという具体的な製品に落とし込むという企画の力が必要となります。

■ 翔工房は、ファッション業界の各方面での活躍を期待される学生に対して、こうした企画力を早い段階から醸成する目的で創設されました。ファッション業界の各方面での活躍を期待される学生にとって、創造するアイデア・イメージから実際の製品になるまでの一つ一つの現場や工程を目で見て、肌で触れることは非常に貴重な経験であり、将来の糧となります。

■ 学生の斬新なアイデアを基に、学生と経験豊富な「匠の技」をもつ技術者とのコラボレーションによって、この世に一つしかないテキスタイルが生み出されます。

■ 果たしてこの素材から、学生自身はどのようなガーメントを製作するのでしょうか...

■ 若者は未来の尾州を支える要諦です。

■ FDCは翔工房を通じて、ファッション業界、何より尾州産地の将来のために、可能性に満ちた才知溢れる種をまきます。



書類審査



プレゼンテーション



尾張繊維技術センター見学



第1回合同ミーティング



染色工場見学



テキスタイルマテリアルセンター見学



紡績工場見学

学生のアイデア×匠の技

翔工房の流れ

ファッション産業を担う学生

イメージ

デザイン画

テキスタイル

ガーメント

匠ネットワーク講師の
マンツーマン指導

■ 学生がイメージを基に、思い思いの
ガーメントを製作します。翔工房で
は、その素材となるテキスタイルの
製作について、その糸から完成まで
の工程を、卓越した技術と能力を兼
ね備えた「匠ネットワーク」のメン
バーを講師として招聘し支援してい
きます。



第2回・第3回合同ミーティング

平成25年度 スケジュール

4月	学校を通じ参加学生を募集
5月22日	匠講師による書類審査
6月14日	プレゼンテーションにより参加学生の決定
6月28日	第1回合同ミーティング
7月～10月	テキスタイル製作
9月27日	第2回合同ミーティング
10月25日	第3回合同ミーティング
11月～12月	学生によるガーメント製作
1月24日	第4回合同ミーティング
2月12日～14日	総合展「THE 尾州」でガーメントの展示
2月13日	同展示会場での作品発表会

※参考 http://www.fdc138.com/fashion/seminar/syo/report_2013.html



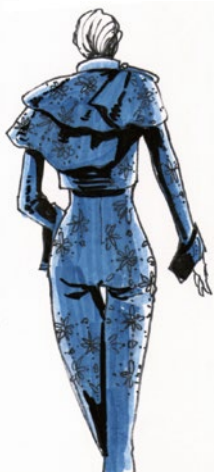
タイトル

【アンダルシア】

F.S



B.S

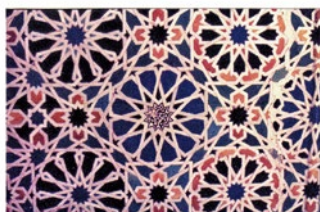


製作にあたって

特に重要視したいのは生地全体に配された文様です。この文様のイメージソースはスペイン・アルハンブラ宮殿の壁面のタイルに使用されているアラベスク文様、また伝統工芸の寄木細工にも見られるような正多角形が規則的に複雑に配置されたデザインです。

このデザインが立体的に見えるよう生地全体に凹凸をつけたいです。例えば地の生地の上に起毛して文様を出したり、もしくは逆にへこませて立体感を出してもいいと考えています。また、文様部分にラメ加工をして質感の違いを強調し、地の生地にも光沢のあるものがないと思っています。

ヨーロッパ調の重厚な柄の生地はカーテン地に見ることがありますが、服作りに適したやわらかく、ストレッチ性を持った、重過ぎない生地に使いたいです。衣装のデザインも鑑みて中肉程度の厚さが望ましいです。



Image

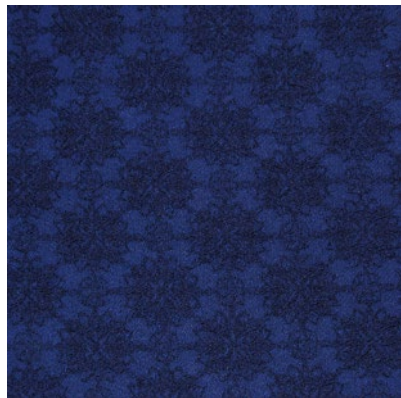


当初のイメージとの比較

当初表面がツルツルとしたような、化繊のような光沢のイメージをしていたが、完成品はウールのあたたかみが活かされた立体感のある仕上がりになった。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

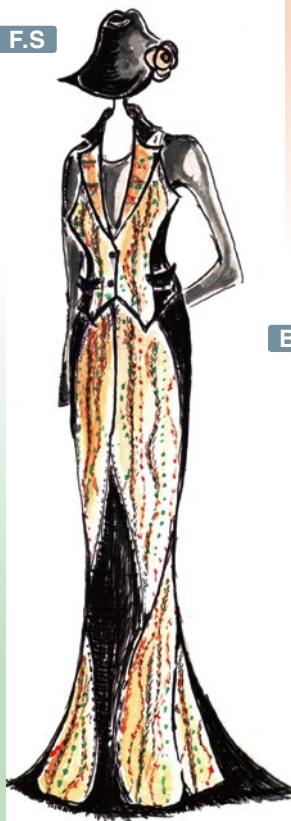
最初はウールの特性や織物ができ上がるまでの工程をあまり理解していなかったが、デザインの際にも使用素材を念頭に置くことの大切さが分かった。また、織りの際に作る「型」はサイズによって値段が変わり、高価なものだと知った。



タイトル

【エネルギー】

F.S



製作にあたって

みなぎるエネルギーや細胞、筋肉の流れ、クリムの絵画に用いられる丸や四角の連続模様をイメージソースにしています。こうしたイメージをヘリンボンの織り方をベースにして、流線的に表現できないかと考えています。

素材はウールを使用します。服になった時、生地が存在意義として立体になった時にどう活きるかを大切にしたいので、流線を存分に感じることのできる縦長シルエットに、普遍的なベーシックアイテムにしたいです。したがって、実際の素材のデザインイメージは、流線形のヘリンボンの織り方をベースに縦ラインを強調すべく配色にしたいです。流線のラインは変則的な感じでもよいのではと考えています。

Image



B.S



当初のイメージとの比較

当初ヘリンボンのうねを、広いところは7cm、狭いところは3cmという話し合いでしたが、いろいろと試行した上、このように仕上げて頂きました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

ヘリンボンの組織に、フィラメント系(Pu)を混ぜることによりうねを作り、うしろからカットするという想像できない加工でした。とても勉強になりました。意匠系を無理に生産して頂きありがとうございました。

■協力／東和毛織(株)、(有)アルドーレ、(有)カナーレ、(株)ソトー、(株)バルダン



■混用率／W 86, N 13, Ac 0.7, Pu 0.3

タイトル

[moss]

F.S

製作にあたって

日本には四季があります。24節季。さらに細分化すると72候。5日毎に季節が移り変わる計算。72候には気象の動きや動植物の変化を知らせる短文がついている。例えば5月21日は22候、名称は「蚕起食桑(かいこおきてくわをはむ)」、意味は蚕が起きて桑を盛んに食べ始める。京都の山奥に暮らすと季節の変化を実に深く感じることができます。周辺には様々な生態系がありますが、日常的に愛でているのは庭の苔。季節の移ろいととも、緑が色彩豊かに変化します。雨にぬれた日は、特に艶っぽい。苔は宇宙をも感じさせ、その繊細で美しい姿を生地にしたいと思います。糸は、細〜中番手で繊細さを表現。緯糸でグラデーションをつける。苔の部分(緑)は、凹凸を出したい。苔をグループ分けして地の目をかえられると動きが出そう。仕上は、一部を起毛処理したり、緯糸をとばしてカットするなど立体的に色んな表情を持たせたい。

Image

B.S

苔



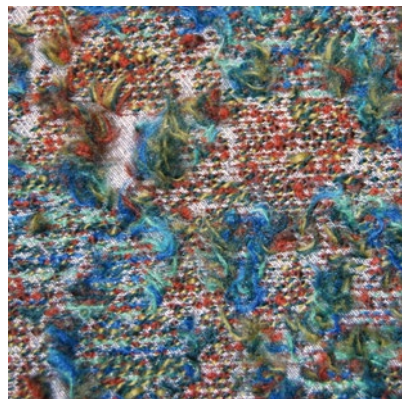
当初のイメージとの比較

ほぼデザイン画通りに仕上がりました。イメージしていた苔の立体感、カットを長めに残すことで、白無地部分とのボリューム感が丁度良いバランスになりました。もう少し硬くなるかなと想像していましたが上質なウール糸のおかげで洗い工程後の生地はとても柔らかく、見るからにあたたかそうなコート地になり、嬉しく思っています。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

先染織物の場合、設計、撚糸、紋紙製作、製織、整理と多くの職人の方々と関わります。工程を通して、仕上がりイメージの共有がとても大事であることを身に染みて思いました。また「織物は、織ってみないことにはわからない」ということ。今回、無地〜カットの切り替わり部分が、緯密度のバランスの悪さから、はっきりと横線が入ってしまいました。製織工程で緯糸を入れ替えることで調整しましたが、紋紙製作の時点で予定通りの設計がなされていても、いざ製織すると微調整が必要だったりします。準備の大切さと現場での柔軟な対応力、今後に活かしていきたいです。ウールという素材は糸の時点でも色々と変化に富んだアレンジが可能です。また生機の整理加工でも変幻自在です。ウールの面白さを再発見！

■協力／東和毛織(株)、森保染色(株)、茶仙染工(株)、丸清撚糸、(有)サン・オリオン、浅四毛織工業(株)、一陽染工(株)



■混用率／W 75, N 12, Ap 8, Mo 5

タイトル

【雪桜】

F.S



製作にあたって

イメージは雪の中に咲いている桜です。地球温暖化が進んでいる今、雪を見る機会は少なくなっています。ましてや雪と桜という組み合わせは、現実に見ることはなかなかできません。しかし、今年の春、実際にそのようなことが起こったとテレビのニュースで流れていました。その時からその驚きを何かに表したいと考えて来ました。見た瞬間は儚い雪と桜の美しい幻想的な様子なのに、よく考えてみると、地球は今大丈夫なのかという危機感がわいてきます。その危うい瞬間を記録として服に残したいと思い、このイメージにしました。

素材は、尾州と言えばウールということで、暖かみがあり、手触りの良いウールを使い、一方で桜の上に乗っている雪の冷たさを表すために透けている素材を使っていきたいです。色は雪の下の桜を表していくために、深みのある水色から桃色にグラデーションさせていきます。

Image



B.S



当初のイメージとの比較

雪が桜の上に乗っているような素材感が上手く出たと感じました。また、地の色や糸の色もきれいで優しい色がでて、予想以上に手触りの柔らかい生地ができたのでうれしいです。ファンシーヤーンが思っていたより全面に出てしまったことが少し残念ですが、一方で光が当たるときらきら光って、陽に透ける淡雪のイメージが出たかなとも思います。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

自分の思っている布を言葉に出して説明して、相手に伝えることの難しさを改めて実感しました。素材の柄をどう出すか、そのために織り方をどうするかとても難しく、悩みました。また、毛羽立てる時にファンシーヤーンが引っかかってしまうという問題もありましたが、講師さんのアイデアでその問題も乗り越えることができ、おかげで生地にすることができました。



タイトル

【落描き】

F.S



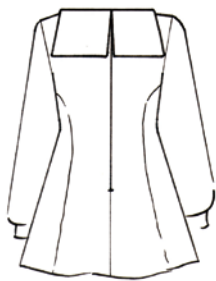
製作にあたって

白いキャンバスにクレヨンで線を引いたり、落書をしたり、子供のお絵かきからインスピレーションを得ました。幼い頃から絵を描くことが好きで、クレヨンを片手にスケッチブックに向かって夢中になっていたことを思い出します。今でも絵を描くことは好きですが、あの頃は一心不乱に、描くことに喜び、楽しさを感じていました。

子供の頃の、楽しかった思い、わくわくした感情をこのテキスタイルデザインを通じて表現したいです。布に絵を描く時のクレヨンの油っぽく、ベタベタした感じを出すために、浮き出るような織り方や素材を使いたいと考えています。主に秋冬に用いられるウールですが、布に適度なシャリ感を持たせて春夏に着用できるようにします。スタイルは、カラフルな色合いの素材を引き立たせるために、あえてシンプルなワンピースで表現します。

Image

B.S



当初のイメージとの比較

最初のイメージとは少し違うものとなりました。「浮き感」「油っぽさ」が表現しきれなかったと感じています。結果として、クレヨンというよりクーピー色鉛筆のような柔らかな風合いが表現できたので、これはまたこれで良さが出たと思います。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

素材が毛でも、春夏に使用できるものが出来ることを学びました。毛といえば、秋冬シーズンのイメージがありましたが、固定概念が覆される体験でした。

また講師の方とのコミュニケーションのためにはイメージの伝達力が不足していると感じました。イメージを伝えるためには、質感、表面効果などの素材知識や豊かな表現力が必要だと感じました。

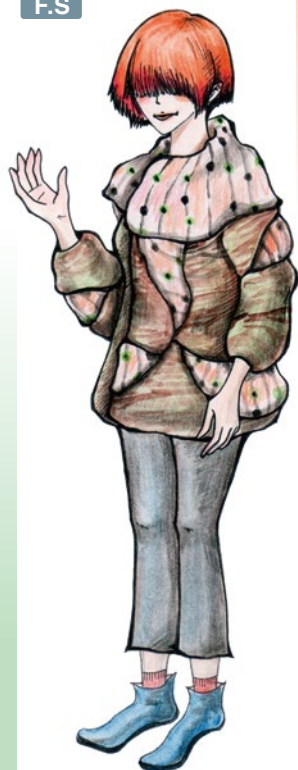
■協力／橋本毛織(株)、丸清然糸、森保染色(株)、(株)ソトー

■混用率／W 99, N 1

タイトル

[HUG]

F.S



製作にあたって

「蓮の実」のイメージを「HUG」というテーマで表現したいです。「蓮の実」の種を一つ一つ大事に抱いている姿は、母がわが子を愛おしく抱いているように見えます。蓮というと一般的には美しい蓮の花をイメージします。しかし、私は花ではなく、蓮の実に魅力を感じます。花びらが全て落ち、枯れつつも種を抱き続ける蓮の実に愛を感じました。自分を犠牲にしながらも新たな命を育てる蓮の実は尊く、とても美しく見えます。テキスタイルは時間が経つにつれ、しわになり、硬くなっていた「蓮の実」の表面テクスチャーやポコポコと出ている種のリズムカルな形を連想させるデザインにしたいです。尾州産地の特産である「ウール」素材の中でも2種類の異なった素材感のウールを効果的に使用したいです。種を抱く蓮のように、人の体を包み込む軽やかで暖かい冬用コートに仕上げます。

Image



B.S



当初のイメージとの比較

最初のイメージとすこし異なるところもありますが、全般的にイメージ通りでした。蓮の実をイメージしたドットが連珠のように繋がるイメージがよく表現できたと思います。

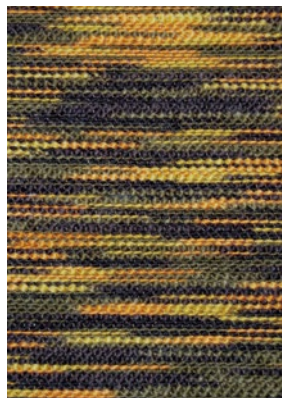
新たな発見や学んだ点、苦労した点

サンプルなくイメージだけで話を進めるのは大変でした。

自分が思うことを作っていただくためには、相手が理解できるように生地サンプルを用意する必要があります。質感や厚みなどを詳しく話し合うことが重要だと感じました。



■混用率/W 100



■混用率/W 100

タイトル

【ハチノス】

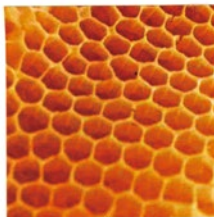
F.S



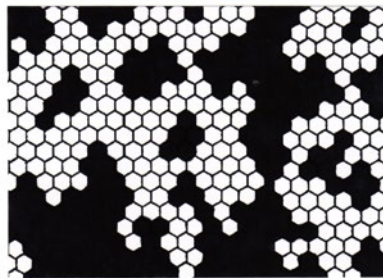
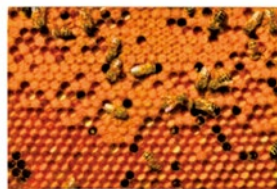
製作にあたって

正六角形の一つ一つにハチの子が入ってこんもりしてるその様子を布にできればと思います。ハチの巣の穴が開いた部分は薄地に、ハチの子が入っている部分はこんもりと厚みを出し、凹凸のある布にしたいです。

Image



B.S



当初のイメージとの比較

当初はかなり厚みがあり、立体感のあるものをイメージしていましたが、仕上がりは思ったようにならず残念です。ですが仕上がった生地もあたたかみのある生地ができて良かったなあと思います。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

自分が考えたものを実際作ってもらう時、イメージやこういう風にしたいと伝えるのはとても難しいことだと感じました。



■混用率／W 100

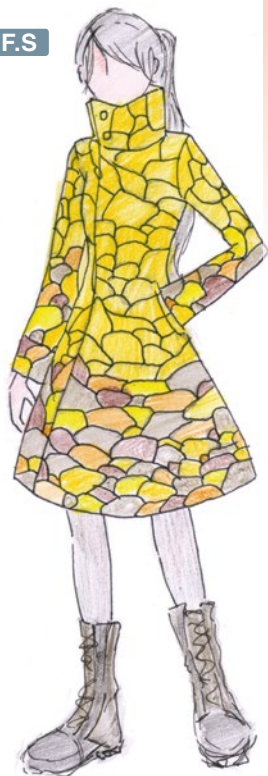
■協力／東和毛織(株)、ウカイ見本、(有)カナーレ、

岩田工房、(株)ソトー

タイトル

【鱗】

F.S



B.S



Image



当初のイメージとの比較

製作タイトルは「鱗」と表記していますが、当初自分の表現したいと思って想像していたのは、魚だけに限定せずイグアナや蛇といった爬虫類の皮膚をおり混ぜたものでした。冬に着用するコートに仕上げたかったので、生地感のイメージも縮絨加工を施したとても厚みのあるウールにしたいと考えていました。しかしイメージの元となっているデザインは松笠魚という「魚」なので、講師の先生のアドバイスで魚のさらっとした表面を想像させるような生地に仕上げました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

新たな発見は織機にかかっているときは分からなかったのですが、織り上がった生地の裏地になる部分が表地に負けず劣らず素敵に仕上がった点です。想定外の良い事でした。学んだ点は講師の繊維に関する知識の豊富さでした。自分の未熟さを思い知りました。柄の大きさをどれくらいにするか悩みました。柄を複雑にやりすぎるとイメージしている魚の模様に見えなくなってしまうからです。しかし柄を小さいものから大きいものへと流動感のあるものにしたことで柄に動きも出て、とても良い生地に仕上がりました。苦労した点は、糸を選ぶ時に当初の自分が想像していた重厚感のある生地にするか、イメージしている魚のさらっとした鱗を表現するのかわど悩んだことです。



■協力／(有)アサヒ紋工所、(有)レナード、中伝毛織株

■混用率／W 77, Si 19, Cu 2, Pe 1, Pu 1

タイトル

【チマチョゴリを現代風に】

F.S



製作にあたって

私は韓国時代劇ドラマが大好きで、その中に出てくるチマチョゴリにとっても興味を持ちました。日本の着物と違い、きらびやかな色合いや豪華な装飾品に目を奪われました。そして、そのチマチョゴリで使うような素材、色、柄に現代風のシルエットを組み合わせました。

ジャケットとパンツのシルエットが出せる素材を希望します。ジャケットの柄の部分はシルクのような光沢感を持たせた蝶柄で、色はチマチョゴリで最も使用される赤、黄、緑にしたいです。

Image



B.S



当初のイメージとの比較

素材は自分のイメージ通りにできました。ウールで絹のようなハリ、バンブーで光沢感がでて、とても良いものになりました。しかし色が自分のイメージしたものにならず、色の配合がいかに素材作りに重要かを知りました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

バンブーを織りこむことで自然に光沢がでたのがすごいのと思いました。

苦労した点は色の配合で、糸そのものの色と出来上がりの素材の色をしっかりとイメージできなかったところです。



■混用率/バンブー 58, W 42



■混用率/バンブー 58, W 42

■協力/茶仙染工(株)、戸崎毛織、(株)ソートー